

# 1. 調査報告概要表

作成日 2008年12月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	( 評価機関で記入 ) 3471503130
法人名	株式会社 アサヒライフコーポレーション
事業所名	グループホーム憩
所在地	広島県福山市山手町1385-1 (電 話) 084 - 951 - 5505
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南四丁目46-9
訪問調査日	平成20年12月17日

## 【情報提供票より】(20年12月 7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 15

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷 金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 225,200円 ) 無	有りの場合 償却の有無	無(退去時居室改装費必要)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,335 円		

### (4) 利用者の概要(12月 7日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福山記念病院、寺岡整形外科、いそだ病院、甲斐歯科、小林外科胃腸科、モリノブ歯科
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には農地がある静かなところに立てられたグループホームである。敷地内には小規模多機能サービスも行なわれており、ホームとしてよく整えられた建物である。管理者は前向きな運営を行なっておられる。職員は入居者に親しみを感じる態度で接しておられ、入居者は安心してゆったりとした生活が営まれている。地域との結びつきも前向きに行なわれておりこの姿勢はこれからも期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価については職員、家族に周知しておられる。管理者はホームを運営するためには外部の声を積極的に聞く姿勢は評価できる。職員とよく話し合って取り組まれることを期待します。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	入居者に対する取り組みは自己評価よりよくできている。管理者と主任(評価者)との連携をよくとられ、評価内容を職員に浸透する取り組みをもっと進められることを期待します。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議に参加する人たちの選定まで進んでいるがまだ開かれていない。地域との交流や災害時の地域とのかわりが必要などもよく理解されているのでその人たちとの運営推進会議が開かれることを期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月に1回担当者が家族に生活状況を手紙で知らせている。面会時には声かけと家族の声を聞く取り組みがあり、急変時には家族と連絡しておられる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	祭に参加や公民館活動に参加など地域の中によくとけこんでおられる。災害時には地域の人たちの協力が必要などをよく理解しておられ、年1回の防災訓練のときは近所に案内を出しておられる。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和」を基本とした理念を作り玄関及び共用空間の壁に大きく張り出している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念をよく理解しており、その理念に基いた介護を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに参加したり幼稚園の運動会に参加したりしての地域との交流が多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の内容は職員はよく知っている。玄関に評価を出して家族などに見せている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を行なうための準備はできているがまだ実施されていない。		公民館長との交流や防災訓練での地域の人々への案内などの取り組みがあり、グループホームとの関わりある人たちの意見を聞きホーム運営の参考にされることが望まれる。

グループホーム憩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入退院が発生したときは連絡している。なお、生保の人については連絡を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回担当者により生活状況を報告している。また、面会時には必ず報告と意見交換を行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営規定に定めており、重要事項説明書で家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。サービス担当者会議で家族の声を反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当者制度を取り入れており、担当者が早く馴染めるように担当する入居者との行事を組み入れたりしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTによる訓練が行なわれている。		外部の専門家による研修は職員を育てるためには短期的に充実された研修である。研修計画があるのでこれからは外部研修とOJTによる研修でレベルアップされることを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くでは同業者同士の交流が行なわれているが参加がない。		同業者との交流は管理者、職員にとって仕事をするときの参考となることが多いので交流、勉強会に参加されることを期待する。

グループホーム憩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時には担当職員と管理者が訪問し、在宅での生活状況を詳しく聞き取っている。入居時には徘徊があったが今は皆落ち着いて生活している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者のちょっとした言葉をメモし、サービス担当者会議でその内容を検討しどのような介護をしたらよいかを話し合っておられる。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者どうしの会話やちょっとした呟きを聞きそれに合わせた介護を行なっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を行い介護計画は職員の話し合いで作成されている。</p>		<p>主任者会議(管理者、主任、副主任)を定期的開催してホームとしての状況をお互いによく理解できるようにされると良い。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月ごとに見直しがされている。そのときは職員、家族の声がよく反映されている。</p>		<p>会議に参加できなかった職員は議事録に目を通されたらサインをするようにされたい。</p>

グループホーム憩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の要望によりデイケアに行っておられる人もいます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は週に1回の往診があり、緊急時にはすぐ対応されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの指針を定めておられる。看取りを行なっておられるがそのときは家族、医師とよく相談して実施しておられる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに合わせた対応で第三者には聞こえない取り組みである。個人情報スタッフルームに保管してある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見ている人、会話を楽しんでおられる人など自分の時間で過ごされている。		

グループホーム憩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は同じ食事を一緒になって食べておられる。食事時間はゆったりとしている。食後の後片付けを入居者もしておられる。朝食は自由に食べられる。(時間制限をしておられない。)		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日でき、状態、要望を相談しながら入っておられる。入浴の状況を把握して相談しておられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、折り紙作り、散歩など職員も参加の楽しみの時間を過ごされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物、幼稚園の行事に参加、地域の祭りを楽しむことや公民館へ出かけたりしておられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室には鍵はかかっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は毎年実施しておられる。そのときは近所に案内が出されている。(災害時には近所の協力が必要なことをよく理解しておられる。)		運営推進会議や町内長さん、公民館長さんなどと話し合われて近所の人々の参加での訓練が実現できるとすばらしいことになる。

グループホーム憩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給量はきちんと記録されて不足のときはアドバイスしておられる。食事が進むようにふりかけをするなどの取り組みがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く机、椅子、ソファの配置に工夫が見られる。壁には入居者の作品やカレンダー、時計などがあり目を楽しませている。入居者の多くは共用空間で過ごされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には入居者のものが持込まれておりその人の個性が感じられる部屋となっている。		